

谷川 一ノ倉沢・烏帽子沢奥壁 凹状岩壁

笹川

【日時】2011年6月19日(日)

【メンバー】L 小暮、笹川

前週の御神楽スラブに続いて、この時期はアプローチに雪渓が使える所が良いと思い、谷川へ行くことにした。順番的には中央稜に行きたいが飯田さんたちが既に計画を立てている上に人気ルートで混雑が予想されるので凹状岩壁と決めた。落石が怖いので一番に取付きたいと思っていたが、小暮が起きられないと言うので、4時起きとなってしまった。一ノ倉としては天気が安定していて雨の心配はなさそうだ。出合からすぐに雪渓があるので、念のためにスパイクアイゼンを履く。ほぼ先週の装備のままで来たので、どう見ても沢屋で飯田さんに笑われてしまった。

テールリッジの登りは既に汗が出る暑さだが、みんな足早に登っていく。こちらは足がつりそうでそんなに早くは歩けない。

凹状岩壁の取付きが分かるか不安だったが、見覚えのあるトラバースルートが出てきた。念のために先行パーティにどこに登るか聞くと中央カンテとの事。中央稜は誰も登っていなかったのに、ここは4パーティ8人の順番待ち。駐車場で見た顔ばかりだったので、あと30分早く出れば一番に取り付けたらう。虫が多いので防虫ネットを被り、ゆっくり準備しながら1時間程待つ。意外と若者が多い。今回は奇数ピッチを笹川、偶数ピッチを小暮で登ることにした。

1P目(Ⅲ+ 40m)：右にトラバースして草付を直上

トラバース箇所は濡れているが、岩がしっかりしていてピンも豊富。クライミングシューズでの草付に慣れていない為、足が滑り怖い。草付箇所は支点がないので、無意識に灌木でランニングを取りバイルを打ちながら登っていた。登り方も沢屋スタイルになってしまう。

2P目(Ⅲ 30m)：緩いスラブを左上

ピンは1本しか取れない、沢でフリーで登っている感覚。落石が多い所だと思ったら、中央カンテからの落石が集中して落ちる場所と後で判明。ここまでは中央カンテと同じルート。

3P目(Ⅲ 30m)：スラブを右上

先行の4パーティは全て中央カンテへ進み、後続パーティもないので、今日の凹状岩壁は貸切。

この辺りから浮石が多くなる。先行パーティ

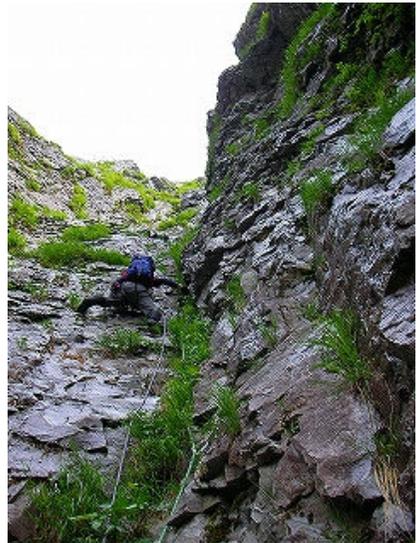


3P目 振り返ると一ノ倉独特のスラブと雪渓

イがいる場合、落石の巣になりそう。

4P目(V- 25m) : 凹状を直上、以前の核心ピッチ
最初から最後まで濡れていた。ビレイしていると霧雨が降ってくる。ホールドが細かくぬるぬるしているので嫌らしい。乾いている時に登りたかった。

5P目(IV 35m) : 右のカンテを越えて右上のハングを越える
出だしの草付が濡れていて嫌らしいので、ハーケンを打つ。右へ右へと行かなければ行けないが、左にかかっているロープが気になり、そちらに行ってしまうと行き詰る。(ガイドにも書いてあった)
ハングを越えなければいけないが、手も足も濡れているので一歩が出ず時間がかかってしまった。



4P目 濡れた凹状を登る

6P目(V+ 40m) : 右にトラバースしてカンテを直上、現在の核心ピッチ

やっと乾いた岩が出てきた。8P中、快適だったのはここだけ。中越地震で崩壊する前は左上したようだが、現在は右にトラバースして直上するのが正解のようだ。藤坂RGのクラックアラカルトに似ているが、それよりは難しいので、グレードはV+とした。中央稜が良く見える。

7P目(III 30m) : 草付を右上

簡単だがピンが乏しいので怖い。灌木部分は足が泥で滑り怖い。

8P目(IV+ 40m) : 被ったクラックを直上

クラック手前の草付も濡れていて嫌らしい。クラック部分はスイスイ登らないと疲れる。中央稜に飯田さんの姿を発見。クラックを抜け草付に出ると稜線が見えてきた。やったゴールだ！

中央稜から懸垂で降りようとしたが、飯田さんたちはまだ時間がかかりそうだと思います、北稜から懸垂開始。ずっと足がつるつるで疲れる。後続のパーティは衝立より下りてしまったようでハーケンを打って上り返している様子。

懸垂が終わってからの沢の下降も歩きにくくて踏み後もハッキリしていないので、時間がかかってしまった。

駐車場に到着すると飯田さんのメモが車に残されていた。次回からは中央稜を下ることにしよう。

【地図】 茂倉岳・水上

【行程】 6/19 一ノ倉沢駐車場(4:45)～凹状岩壁取付き(6:10/7:15)～北稜(12:20/12:45)～懸垂下降終了(14:40)～一ノ倉沢駐車場(16:20)

<http://www.tomanokaze.dojin.com/>